

群 教 七	G11 - 03
	平26.254集
	特活 - 中

自発的、自治的に 学級生活を送る生徒の育成

—生徒主体による話し合い活動を通して—

特別研修員 木暮 直隆

I 研究テーマ設定の理由

平成26年度学校教育の指針は、特別活動における指導の重点として、生徒自身が充実感や存在感を味わえるような自発的、自治的な活動を取り入れることを求めている。

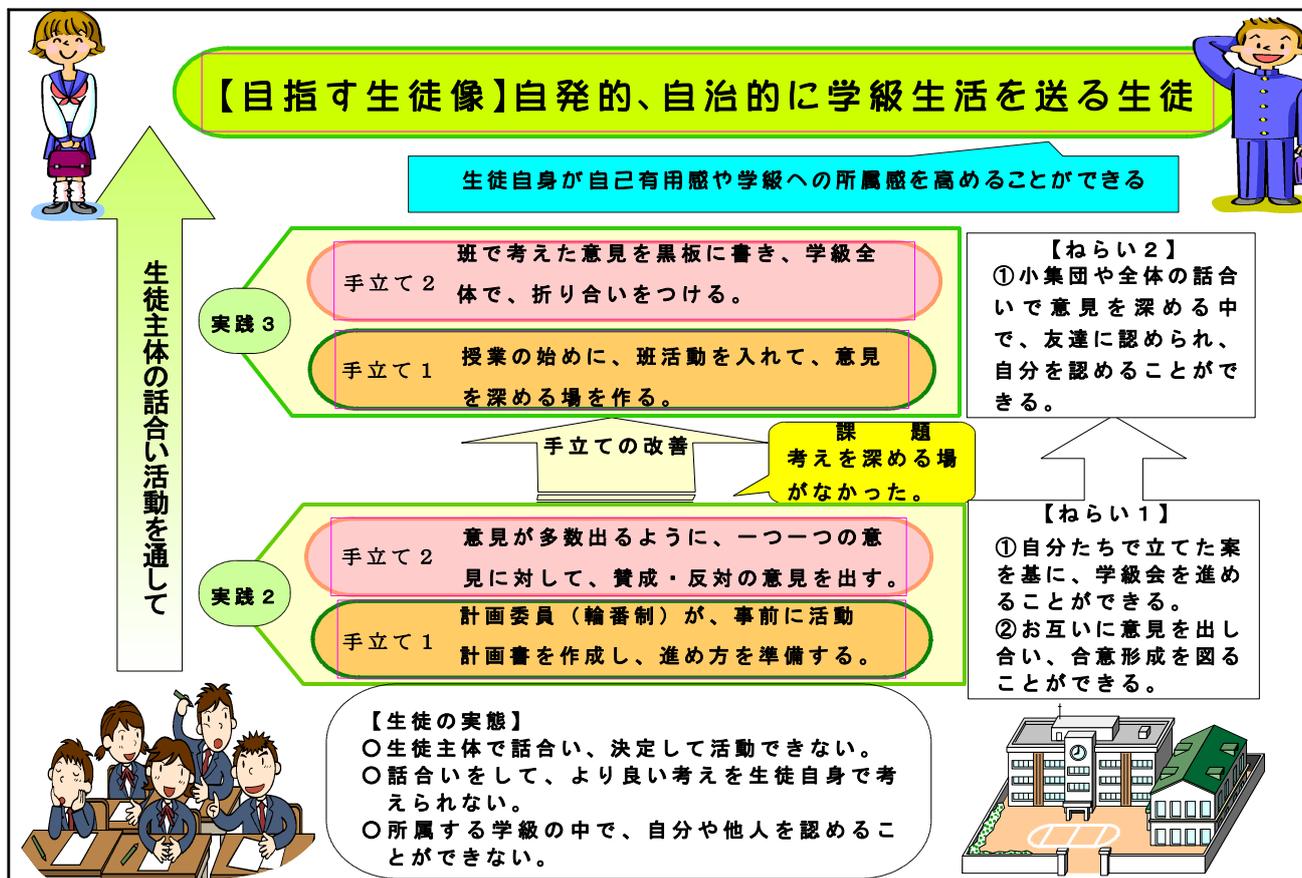
本学級の生徒は、物事に一生懸命に取り組み、仲間を思いやる良さをもっているが、生徒主体で話し合い、より良い考えを出し合い、決定して活動することが苦手である。また、学級への所属感が薄く、自分や他人を認めることができないといった課題がある。

そこで、生徒が主体的に取り組む学級活動にするため、輪番制による計画委員会を組織し、全員が活動に参加できるようにした。計画委員会では、学級で話し合うべき必要感のある議題を精選し、活動計画書を作成してから話し合い活動を進めるようにした。また、一つ一つの意見に対して根拠を明らかにした賛成・反対の意見を求めたり、班活動を取り入れたりするなど、生徒同士が本音で話し合う場面を作るように工夫した。

このような実践を年間を通して計画的・意図的に行うことにより、生徒自らが学級の課題解決に主体的に取り組む、自発的、自治的に学級生活を送る生徒を育成できると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 議題 「目標とする学級をつくるために、合唱祭までの残り10日間でやることを決めよう」

実践2における研究上の手立て

- ①生徒主体で学級活動を進行できるように、計画委員が学級活動の活動計画書を作成した
- ②意見が多く出るように、一つ一つの意見に対して、賛成・反対の意見が出るまで考える時間をとる

実践2では、以上のような手立てを考えた。①の手立ては、生徒自身が学級会をシュミレーションする上でも有効で、生徒が自治的、自発的に学級活動を運営できたと考えられる。また、②の手立ては、一つの意見に対して、生徒一人一人が考えを述べることにより、クラス全員が意見の共通認識を図ることができ、「やる活動」、「つくる活動」を決める上で有効であった。

課題としては、生徒一人一人が決めた意見を、もう一度再考する場面がなかったことが挙げられる。そこで、実践3の授業では、その点を改善できるように取り組んだ。

(2) 議題 「主体的な進路選択に向けて、学習の取り組みを考えよう」

実践3における研究上の手立て

- ①授業の始めの段階で班活動を入れることで、意見を再考し合い、お互いを認め合うことができる
- ②班で考えた意見を比べ合い、それを基にクラス全体で合体案・折衷案を考える

実践3では、実践2の課題であった意見を再考する場面を、生徒一人一人が個人で考えを決めた後に、班活動の中で取り入れた。方法としては、個人が決めた意見を、班でまとめ易いように付箋紙に書き、班で台紙に貼り合い比較検討する中で、意見を再考する話し合いを行った。班で話し合い、再考した意見は、班毎に黒板に書き、全体で議論を重ねた。このことにより、生徒は、より多くの意見から学び、自分の考えと比較、検討していた。その結果、一人一人の考えが深まり、学級で取り組む学習の「やる活動、確認方法」を決めることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 輪番制による計画委員会を組織し、生徒が学級会の活動計画書を、作ることで、学級会の運営を自分たちで行えるようになり、学級の課題に対して主体的に考えることができた。
- 生徒同士が賛成・反対の意見を出し合うことで、合体案、折衷案の意見をまとめることができ、話し合いをして、より良い意見を考え、集団決定することができた。
- 班活動では、付箋紙を使って話し合いの内容を、お互いに再考することで、生徒同士が互いを認め合うことができ、自己有用感や学級に対する所属感を持つことができた。

2 課題

- 話し合い活動を個人→班→全体と話し合いを進めていく中で、時間配分を考えていかないと、1時間の授業の中で、「出し合う」「比べ合う」「決める」の内容を話し合うことができないことが分かった。
- 全体の流れでは、個人で意見を持ち、班活動で話し合っ、意見を比べ合うことができた。更に向上するためには、話し合い活動を円滑に進めるために司会が経験を重ねる必要がある。

3 提言

- 輪番制による計画委員会を組織し、生徒全員が主体的にかかわる場の設定を工夫することにより、生徒は学級の課題解決に真剣に向き合い、自発的、自治的な態度で学校生活を送るようになります。
- 事後の活動において、集団決定の内容がどのように実践されたか、成果と課題を振り返ることが、学級の絆を深め、次の活動への意欲につながります。
- 輪番制による計画委員会を組織した話し合い活動を、生徒の発達段階を踏まえ、学年全体で取り組むことにより、生徒が主体的に学級や学年、学校の課題解決に取り組むようになります。

＜授業実践＞

実践 1

- 1 議題名 「目標とする学級をつくるために、合唱祭までの残り10日間でやることを決めよう」
(第2学年・2学期)

2 議題及び本時について

本時の活動は、合唱祭までの残り10日間で「やる活動」「つくる活動」の2つを決めて、合唱祭までの練習をクラス一丸となって取り組む内容である。「やる活動」とは、学級で合唱祭の歌の練習として取り組むこと。「つくる活動」は、学級で合唱祭での取組に関わることを掲示していく活動となる。事前に「やる活動」「つくる活動」の内容を生徒に聞いておき、実際に行える見通しが付く内容を計画委員が選択した。そして、実際に学級で取り組む活動を、話し合いを通して決定するという活動を行った。

本時のねらいは、「目標とする学級を作るために、合唱祭のスローガンに基づいた取組の中で合意形成し、それに基づいた実践を通して、学級への所属感や連帯感を深める。」である。そこで、本時の授業の手立てを次のように具体化した。

3 授業の実際

授業前・授業の流れについては、以下に記す。説明1のようにして、生徒主体による話し合い活動を行った。事前の活動として、生徒が合唱祭10日前に「やる活動」「つくる活動」を考えたものを、計画委員が選択し、模造紙に書いて授業が始まる前に黒板に掲示をしておいた(図1)。また、本時は事前に計画委員が立てた活動計画書に沿って、学級活動を進めた(図2)。

授業前・授業の流れ(説明1)

- ①計画委員が事前に、活動計画書を作成しておく。
- ②計画委員が事前に「やる活動」「つくる活動」の案を絞っておき、短冊で授業前に貼る。
- ③一つの案に対して反対・賛成の意見を募り、折り合いを付けていく。
- ④「やる活動」「つくる活動」を決め、中心になって進める生徒の担当も決める。

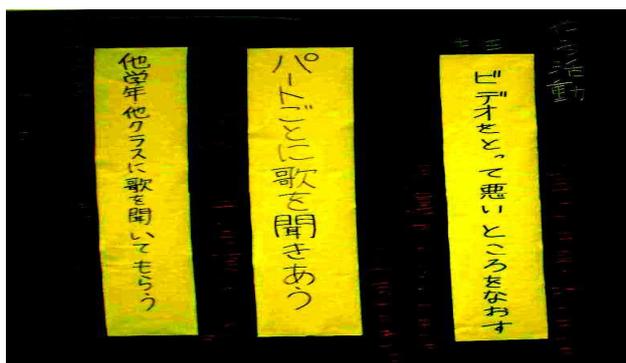


図1 黒板への短冊の掲示の様子

<p>④お前は[やる活動]から決めていきます。 *これらの案について何か意見があればいい。 賛成案は残す 1つの案に5人5人の意見 反対案は消す 最後は確認の拍手あり</p>	13分	<p>争いがない場合には、賛成・反対でもいい。あてていく。必ず、発言に対して、多くの人をあてらる(◎) *ひとつひとつ意見を聞いていく *多数決で決めてはいけない。意見に使うのはいい。 賛成・反対の人数は把握する 賛成が多ければ何個でもOK 意見の合体もOK *1つ意味を聞いていく</p>
<p>⑤次に[つくる活動]を決めます。 決め方はやる活動と同じ。</p>	12分	

図2 活動計画書

本時のねらいを達成するためには、意見を発表し、他者の意見を認め、折衷案、合体案の意見をまとめるための話し合い活動が必要となる。授業が始まる前に、黒板に計画委員が選択した「やる活動」「つくる活動」を模造紙で貼っておいたり、話し合いの形である「コ」の字型に、生徒の机を移動させておいたりしたのも、あらかじめ意見交換をしやすい場を作り、話し合う時間を多く確保するための手段である。授業前に準備を整えておいたことで、話し合いを円滑に進めることができた。次に、授業の様子、特に意見の合意形成をしていく様子を記述する。

「やる活動」において、「他学年のクラスに歌を歌いに行く」ことを実際にやるかどうかを決定していく場面では、初めは、反対の意見を言っていた生徒が他の生徒の意見を聞く事によって考え方が変わり、最後には全員が賛成の意見で合意形成することができた。

「他学年のクラスに歌を歌いに行く」という意見を学級全体でまとめる様子	
S 1 : <u>他学年に行って歌を歌うのはいいことだと思いますが、なかなか時間を取るのが難しいと思います。</u>	賛成 _____ 反対 _____
S 2 : <u>時間が取れないし、緊張で声が出ないと思う。</u>	
司会 : この反対の意見に対して、何か意見はありますか。	
S 3 : <u>お互いに聞き合うのは良いこと。時間が取れないのを理由にやらないのは良くないと思う。</u>	
S 4 : <u>去年他のクラスがやっているのを聞いて、盛り上がりそう良かったと思った。時間が取れないと思わずに、やってみると良いと思います。</u>	
S 1 : <u>合唱祭全体のために良いという意見を聞いて、やるべきだと思いました。【変化した意見】</u>	
司会 : やっていく方向で良いでしょうか。良ければ、拍手をしてください。	

S 1 は、いつも積極的に意見を述べることができる。初めは、反対の意見を述べていたが、S 3・S 4 の意見を認め、自分の意見と比べて、良い方を選択することができた。他人の意見を聞いて、自分で考えて意見を変えることは、ねらいを達成するために必要な「他人の意見を認め、折衷案や合体案を考え力」の育成につながると考えられる。この力が、学級全体に波及していくと良いと考える。

今回の学級会では、やる活動として、「他学年に歌いに行く」「パートごとに聞き合い、アドバイスをしていく」「ビデオを撮ってチェックしていく」が決まった。また、つくる活動として、「アドバイスシートを書いていく(図3)」「一人一人の目標を書いて模造紙に貼る(図4)」という内容が決まった。パートリーダーや指揮者からのアドバイスシートは、一人一人の自己有用感を高めるために有効であった。また、一人一人が目標を書くことは、学級への所属感を高める上で有効であった。

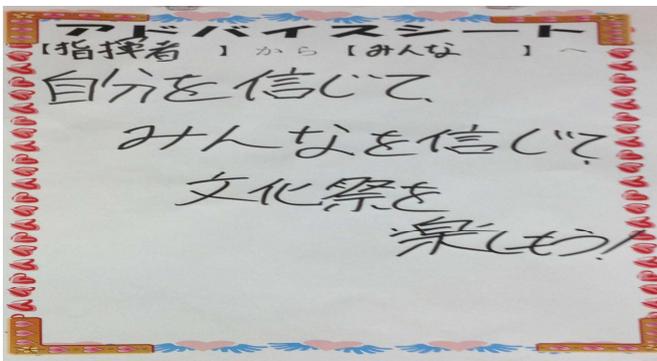


図3 指揮者からのアドバイスシート

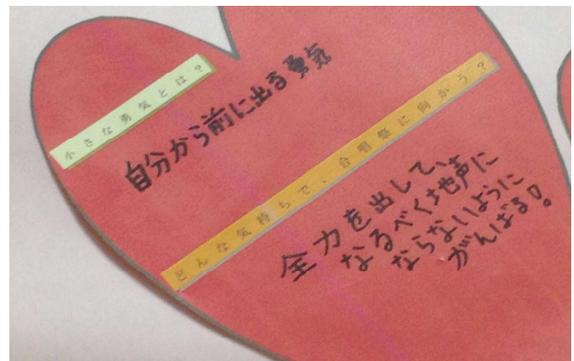


図4 一人一人の目標

4 考察

事前に、活動計画書を作成しておいたことにより、学級活動はとてもスムーズに進めることができた。また、「やる活動」「つくる活動」においても、事前に計画委員が議論する内容を絞っておいたことで話合いの時間を確保できたと考える。その中で、ねらいを達成するために必要な、「他者の意見を容認し、折衷案や合体案を考えていく力」は育成できたと考える。また、一人一人の生徒が意見を発表できた事で、自己有用感や学級への所属感・連帯感を深めることができた。

課題としては、個人の意見を再考する場面が十分に確保できなかったもので、班活動による話合いを取り入れて、意見を再考していく必要を感じた。授業後の実践については、着実に話合いの内容を実行することができ、学級の連帯感を深めることができた。このように、学級の課題を解決するために継続的に、学級会活動を続けていくことが、自発的、自治的活動を行う生徒を育てる上で、大切なことである。

実践 2

1 議題名 「受験に向けて、学習の取り組みを考えよう」(第2学年・2学期)

2 議題及び本時について

本時の活動は2年生として、受験に向けての学習の取り組みをもう一度見直そうというものである。「これから学級で取り組むことを決め、生徒同士で毎日学習しているかどうかを確認することで、学級全体で学習の雰囲気や習慣を作っていく」ということがねらいである。本時は、自分の考えを班で発表・議論することにより、クラスメイトの意見を尊重しながら、学級で取り組むことを決める。最後は「やる活動」「確認方法」を決めて実践したいと考える。実践2における成果と課題を踏まえ、本時は以下のように授業実践を行った。

3 授業の実践

事前の活動では、生徒が3年生から受験に対する参考意見、刺激を得るためにインタビューを行い、授業が始まる前に受験に対する心構えや勉強方法のインタビュー映像を見た。また、3年生からはインタビューと同時に、受験勉強について感じていることや、2年生で取り組んでおいた方が望ましい学習内容を紙に書いてもらい、インタビューの映像を見た後に配布をした。その後、生徒個人の学習への取り組み方法の意見を紙に書き、意見を深めるため班での話し合いを取り入れた(図5)。

授業前・授業の流れ

- ① 計画委員が事前に、活動計画書を作成しておく。
- ② 3年生へインタビューをしておき、授業の始めに見せる。
- ③ 班で付箋紙を貼り、意見を出し合っていく。
- ④ 班の意見を黒板に書き、全体で賛成・反対の意見を出していく。
- ⑤ 「やる活動」「解決方法」を決める。

◎受験を迎えるうえで、気をつけることは何かありますか？

教科	しておいたほうがいい事	どのようにすればいい？
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字練習の時、ただ書くのではなく、書き順を意識して書く。 ●本を読む。 ◎古文の読み方や意味をしっかりと勉強した方がいいと思います。 △言葉(語句)の意味を理解できるようにすること。 ◆120～160字の作文を書くことに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルを繰り返しやって覚える。授業や自主勉強でスキルをやるとき、気にかけてやる。 ●いきなる長編からではなく、短編のものから。あと、ライトノベルズではなく、名作を一つは読んでおく。 △本をたくさん読んで、わからない字は調べる習慣をつける。 ◆時間を決めて、時間内に書ききる練習をする。

図5 3年生に書いてもらった学習方法

(1) 班で話し合い、意見を深める場面

初めに個人で書いた意見を図6のように付箋紙に書き、それを班用のワークシートに貼り付けていくことで、意見をまとめやすくした。以下に班でのやりとりを記述する。

班でのやりとり(付箋紙を貼る)

【一つ目のグループ】

S1: 量を決めるか(1日2ページなど)。やり方を決めるか、そこを話し合わなければいけない。それに、朝忙しいから、自分たちでチェックするのは無理だね。

【二つ目のグループ】

S2: 毎日全教科やる? それとも、毎日1教科ずつやる?

S3: 1日1教科やろう。

S2: 火曜日この教科やって、みたいに曜日で決めていこう。そして、それを1週間でまわしていこう。

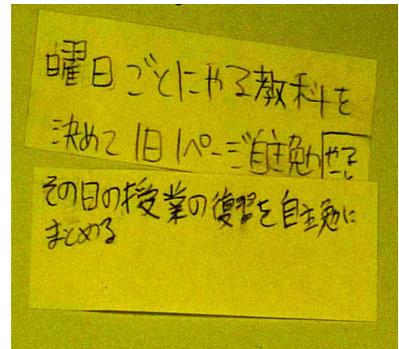


図6 班の話し合いの付箋紙

以上のように、全員が付箋紙を貼った後、付箋紙を移動し意見をまとめて、班の中でやり方や量などを決めた。その後、各班の意見を班の代表が黒板に書きに来て、全体で「やる活動」や「確認方法」を決めた。次に全体での意見をまとめる場面について記述する。

(2) 全体で意見をまとめる場面

展開2として、学級全体で「やる活動」「確認方法」を決める活動を行った。各班の考えを発表し、合体案、折衷案を出し合い、意見をまとめていくことができた。以下に、「やる活動」を決める際の意見を出し合う中で、合意形成を図る場面を記述する。

意見を出し合い、合意形成を図る場面	
S1：1日2ページやるのは、復習にも使えて良いと思う。	
S2：時間と量では <u>時間の方が良い</u> と思う。	
S3：時間では、密度の違いが出る。授業の復習をするのだから、 <u>ページが良い</u> のでは。	
S4：その日の授業の復習は自主勉強でできるから、 <u>ページでなく、時間が良い</u> 。	<p style="text-align: center;">[生徒の意見]</p> <p style="text-align: center;">時間を優先している</p> <p style="text-align: center;">~~~~~</p> <p style="text-align: center;">ページを優先している</p> <p style="text-align: center;">=====</p>
T：各班の意見を検討している時間がないから、意見全体をみると、【時間・ページ】に絞られているから、この2つを検討していこう。	
S1：いつもの自主勉強は、半ページしかやってこない人が多いから、 <u>最低1ページはやった方が良い</u> 。	
S5：S1と同じで <u>1ページ以上</u> はやった方が良い。	
S3：ページと時間に分かれているから、まずはそれを決めた方が良い。	
S6：時間ではごまかす人がいるから、 <u>ページが良い</u> と思う。	
S7：時間より、 <u>ページが良い</u> と思う。内容が薄くなってしまうから。	<p style="text-align: center;">[合意形成が進むポイント]</p> <p>①多くの生徒に意見を賛成・反対に分け、たくさん発言させる。</p> <p>②活発に意見交換が行われると生徒一人一人の自己決定が促進される。</p>
S8：時間より <u>ページの方が</u> 、誰が見ても、ここまでやったと一目で分かるので良いと思う。	
司会：ページでやっていくのが良いか、意見を聞きたいので挙手をお願いします。	
S9：時間より <u>ページの方が</u> 良い。	
S10：時間より <u>ページの方が</u> チェックしやすいので良いと思います。	

話し合いの中で、初めはS2・S4が時間を支持していたが、クラスの流れとしてはページに傾いてきた。最終的に、「やる活動」としては、「1日1ページ以上の自主勉強をする」ことに決まった。また、「解決方法」としては、自主勉強係が内容・ページ数を昼休みにチェックをして、学習ができていない生徒に対して、自主勉強を促すことに決まった。話し合いの中で、少しずつであるが時間より、ページの方が良いという流れになってきているのが分かる。

生徒一人一人が他人の意見を聞き、自分にはなかった考えを取り入れていく中で、話し合いの内容をより良い方向に動かすよう、意思統一が図れるようになった。また、決まった内容については副司会が画用紙に書き、クラス掲示をして、行動化につなげている(図7)。

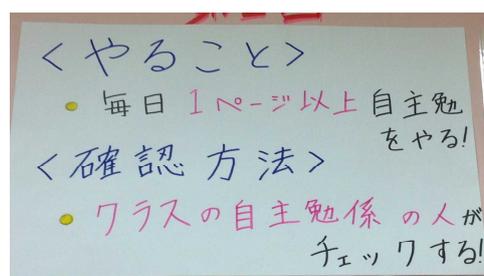


図7 学級会で決まった内容の掲示

4 考察

実践授業2を行い、課題として考えられるのは、「司会があらゆるケースに対応して、学級会を円滑に進めるためには、多くの司会の経験が必要である」ということである。輪番制で司会を行っているので難しい部分もあるが、話し合い活動を継続的に行うことにより、生徒が自発的、自治的に学級会、生徒会活動ができ、自己有用感や学級への所属感を感じることができると考える。